

Sapporo
education and
culture hall

R a k u

65



n o



2.0

をはいうと呼ぶると思います。 楽公演を行う時は大ホールで組み 影-覧古考新-』。通常、教文で能 地で行われる薪能『あたら夜の月 8月10日に札幌市南区の石山緑

実施の機

大文が企画した内容をもとの本 (術祭2022総合ディレをは 造形集団CINQの一員合は 造形集団CINQの一員合は ではして、同芸術祭石山緑果-マー吉村卓也さんから助る・ イメージだけでは埋まりをとった企画のブラッシュアッ をとった企画のブラッシュアッ をとった企画のブラッシュアッ に

に大場所で日常とは違うイベントを行うにあたっては、その地域の人々に内容を理解してもらい、人々に内容を理解してもらい、人々に内容を理解してもらい、人々に内容を理解してもらい、人々に内容を理解してもらい、大々に大いたが必要不可欠でした。そこで札幌市南区市民部地域解そこで札幌市南区市民部地域解表地区連合会に足繁く通って協力にも参加するなどして、広く地域の表地区連合会に足繁く通って協力にも参加するなどして、広く地域の方に薪能開催へ向けて様々な協力人、薪能開催へ向けて様々な協力人、薪能開催へ向けて様々な協力人、薪能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能開催へ向けて様々な協力人、新能関係の関係を表していたがある。

、その「火入れ」で協力に火をともすのも重要な火入れ式もその1つ。 薪

内連合会を通じて協力をお願いで 対象りながら駐車場が多くない石 がありながら駐車場が多くない石 がありながら駐車場が多くない石 がありながら駐車場が多くない石 がありながら駐車場が多くない石 をいう問題もありましたが、これ を対できたのには、もう1つの要 ことができたのには、もう1つの要 ことができたのには、もう1つの要 ことができたのには、もう1つの要 という回の薪能に対しても期待感を がの素晴らしい思い出があったこと で、今回の薪能に対しても期待感を 付ってもらえたのです。

な映像作品です。 https://www.kyobun.org/takiginoh/

テレビCM用の映像ながら、まるで長編映画のワンシーンのように息を呑むプロモーション映像。公演を行う石山緑地で撮影され、その夜の空気がそのまま閉じ込められたよう

石山緑地薪能『あたら夜の月影 - 覧古考新-』

プロモーション映像



世界-』が、すでに行われま弦楽四重奏と能が織りなす新



石山緑地薪能

あたら夜の月影 ― 覧古考新 ―

2024年8月10日[土] 雨天時8月11日[日・祝] に順延

○17:30 開場 18:15 最終集合 18:30 開演 20:45 終演○会場:札幌石山緑地 ネガティブマウンド(札幌市南区石山78)

特集 | 1

石山緑地で地域とともに創造する 夏の夜の薪能『あたら夜の月影-覧古考新-』

多彩なプログラムで夏の夜を彩る石山緑地薪能『あたら夜の月影-覧古考新-』。

石山緑地という普段イベント会場ではない場所での開催を実現することは、教文にとっては挑戦の連続。

そんな中でも特に地域の人々との連携は欠かせないものでした。

決してイベントでは語られない開催までに至る経緯と、地域の人々との多様なつながりを紐解きます。

2 | **R**aku 65

TOPICS 03

闇夜に浮かぶ満月のもとで存在感を示す石山緑地のネガティブマウンド。 そこに浮かぶ2面性を持つ女性は、それぞれの感情に背を向けて佇み 何を思っているのでしょうか。

公演を象徴する タイトル

『あたら夜の月影-覧古考新-』とい うタイトルが決まるまでには様々な案 が浮かんでは消えていきました。能 楽展の時に「エモい」という感想をい ただいたこともあり、例えばエモー ショナルな古語はないかと探す中で 「可惜夜(あたらよ) | という言葉を発 見。「明けてしまうのが惜しい夜」の ことを指す言葉で、とても叙情的だっ たことから、この「あたら夜」を使って タイトルを検討することとしました。 なぜ、明けてしまうのが惜しいのか を考えたとき安達原に「月」が象徴 的に登場することを思い出しタイトル を「あたら夜の月影」としました。また、 今回の演出プランを考えていく中で 室町時代の薪能を最新鋭のシステ ムで再現する」ということを凝縮する ような言葉を探したところ中国の漢 書に記された「覧古考新」という言葉 を発見。「古い事柄をかえりみて、新 しい事柄を考察すること」を表すこ の4文字は、まさに今回の公演を体 現しているようでした。こうして『あた ら夜の月影 – 覧古考新 – 』というタ イトルが完成。まさに今回の公演を 象徴するタイトルとなりました。





TOPICS 02

ビジュアル・ アート

チラシやポスターのビジュアルアートを 担当したヤマガミユキヒロさんとの出会 いは2016年に教文で行われた 『Traditional Trial』。風景を鉛筆や 墨などで描画した絵画に、同一視点 から撮影した映像をプロジェクターで 投影する「キャンバス・プロジェクショ ン | というヤマガミさんの制作手法を 能に取り入れたその公演で存在を知 り、その後、能楽展2023ではホログラ ム装置の映像にヤマガミさんの映像を 用いて展示を行いました。今回のチラ シを検討するにあたり、従来の能楽公 演とは違い、一瞬「これはなんだろう と思わせつつも、手に取った人の想像 を掻き立てるようなものを作りたいと考 える中でヤマガミさんが浮上。オファー をしたところ、これまでの教文の取組 に興味を持っていただいていたこともあ り快諾をいただきました。演出を担当 する松野浩行さん、馬場鏡丞さんを交 えて、どのようなビジュアルにするかディ スカッションを重ねながらビジュアル アートが完成。デザインを担当する長 尾修治さんのフィニッシュデザインによ り、思わず見入ってしまうような素晴ら

しいチラシ・ポスターが完成しました。

TOPICS

独創的な 会場システム

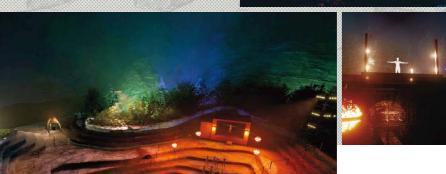
現在の能楽公演は室内に作られた能 舞台で行うのが一般的ですが、そもそ も能が生まれたばかりの室町時代に は屋外で薪の明かりのもと、少ない観 客の前で行われていました。石山緑 地薪能では、そんな650年前の能の世 界観に思いを馳せ、現代の最新鋭の 機材と技術を使い1,000人という観客 に届けようという企画です。そのため 通常舞台とは一味違う、音響、照明、 映像投影(プロジェクションマッピン グ)手法をこの舞台のために再構築し、 演出プランを練り上げました。最新の システムを用いて最古の能を再現する という一風変わった演出ですが、本来、 舞台効果を一切使わず鑑賞者が想像 力を駆使して観るのが能楽の真髄とも 言えます。しかし現代の私達は能の 鑑賞の仕方や謡を瞬時に読解するこ とは困難です。能の持つ幽玄の世界 へと鑑賞者を誘い、そして想像してい ただくために、能の真髄を壊すことなく、 補完してより高めるような演出で来場 者の五感を刺激し、空想へのお手伝 いができればと思います。昨今のエン ターテインメントのような体感的な解り やすさのためにテクノロジーを使うので はなく、観る人の想像を促すことを目的 とした演出手法となります。



石山緑地薪能を 彩る 様々な創意工夫

能との新しい出会いを演出するため、石山緑地薪能では 実際に体験していただくプログラムの演出はもちろん、 公演前に触れる情報も、全て事細かに世界観を統一 して構築しています。その創意工夫の一端をご紹介します。



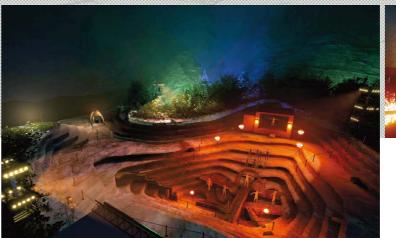


石山緑地薪能の初期イメージ図 の数々。実際行われるものとは 異なる部分が沢山あります。企 画が進んでいく中で何度もCG でイメージ図を作り直し、それ と同時並行して会場システムが 練り上げられていきました。



『Traditional Trial』で披露され たキャンバス・プロジェクションは 舞台演出だけでなく、美術作品と して数多くの展覧会で発表。第 11回岡本太郎現代芸術賞で特別 賞を受賞するなど、国内外で活躍 する現代美術作家です。





1) Re-birth [大地の記憶] マリオット札幌 2) Re-birth [朽ち往くものから] 3) 織部鉄線紋陶筥

芸

家

沢ネ

敏音

也。





Art Culture Human

05

伝 い لح 前 風 を 吹かせ続け 陶芸 の 世

「陶芸」と聞いて誰しも最初に浮かぶのは日常使ってい る器のような物ではないだろうか。下沢さんは、そんな器 はもちろんオブジェのような前衛的な作品でも高い評価さ れている陶芸家だ。

陶芸家である下澤土泡氏を父に持ち、物心ついた頃か ら陶芸が身近にあった下沢さんは20代で自身の工房を 設立。当時京都で活動していた陶芸家グループ『走泥社』 の作るオブジェのような焼き物に影響を受け、自身でも従 来の器に留まらない前衛的な作品を作り始めた。はじめ は器ばかりだった仕事も年々前衛的な作品への依頼が増 え、最近も7メートルにも及ぶ平面作品を5ヶ月かけて完 成させたばかり。現在も10月から始まる北海道立釧路芸 術館での大規模個展に向けて準備のさなかだ。

「でも不思議なもので前衛の仕事ばかりやっていると器 が作りたくなるんです。」やったことを積み重ねながら表 現する器の仕事と、やったことを壊しながら新しい表現 を模索する前衛の仕事。真逆の考え方をしなければなら ない、この2つの仕事が両方あることが、下沢さんが創作 をしていくうえでバランスを保つ秘訣だ。

作家活動以外にも、ここ数年で札幌文化団体協議会 (札幌文団協: さっぽろぶんだんきょう)と北海道陶芸協会 の会長に相次いで就任。「団体行動は得意じゃないんで す。」と笑いながらも、コロナで停滞した活動を活性化する ために模索する日々だ。札幌文団協は10月12・13日に教文 リニューアルオープンシリーズとして「第53回ぶんだんきょう フェスティバル」を開催する。札幌を拠点に活動する様々 なジャンルの人々が集まり1つの舞台で発表するこのフェス ティバルは、発表の場を提供するだけでなく札幌市民に今 の札幌を体験してもらうことも重要だと下沢さんは言う。

陶芸の世界に新しい風を吹き込み続け、文化振興面で も地域を盛り上げる下沢さんの存在は、札幌の芸術シーン にとって欠かせない存在だ。

SAPPORO EDUCATION AND CULTURE HALL

KYOBUN TOPICS

Raku 65 / July 2024

TOPICS.1

仕事という新しい観点から能楽を知る 「能楽師のお仕事大解剖

∼奥深き日本の伝統芸能~」開催

能楽師の松野浩行さんを迎え札幌市図書・情報館で「能楽師の 仕事」に注目したトークが開催。能楽師の普段を知ってもらおうと 冒頭は洋服姿で登場した松野さんから、語られることの少ない 「職業としての能楽師」についてお話しいただきました。後半は石 山緑地薪能でタッグを組む馬場鏡丞さんも登場。外の視点から 能楽師の仕事ぶりについて語られ、能楽の世界をまた違った側面 から知ることができる機会となりました。



TOPICS.2

祭りの夜、繁華街に天女が現れ薪能を語る 「SUSUKI-NOH 石山緑地薪能

トークイベント」開催

札幌の初夏を告げる北海道神宮例大祭と同日、繁華街すすきの の新商業施設COCONO SUSUKINOで「SUSUKI-NOH 石山 緑地薪能トークイベント」が行われました。トーク開始直後に天女 の装束をまとった能楽師が登場。偶然施設を訪れていた人々から も注目を浴びていました。トークでは薪能で行われる予定の演出 について語られ、PR映像も初公開。天女との記念撮影も行われ、 来場者の笑顔が広がる心温まる空間となりました。





TOPICS.3

教文リニューアルオープン記念 野村萬斎 狂言公演 新作狂言『鮎』

改修工事による長期休館を経て、今年10月札幌市教育文化会 館のリニューアルオープン記念公演として「野村萬斎 狂言公演」 を開催。北海道で初上演となる新作狂言「鮎」は作家の池澤夏 樹の短編小説「鮎」をもとに狂言台本として作劇し、野村萬斎が 演出を務める新作狂言です。また、モーリス・ラヴェルの舞踊音 楽「ボレロ」と狂言の「三番叟」を軸に萬斎氏が作り上げた 「MANSAIボレロ」、そして古典演目の「梟山伏」など多彩な演目 を上演。期待の若手狂言師 野村裕基も出演します。

- ■2024年10月4日(金)・5日(土) 札幌市教育文化会館 大ホール
- ■チケット:7月17日(水)より発売中

詳しくはHPをご覧ください https://www.kyobun.org/event.html











野村裕基